

彩小ふれあいだより

平成 22 年 6 月 15 日

5 年生 被爆体験記朗読会

広島市立彩が丘小学校
校長 竹川 智 子



6月14日（火）2校時、5年生が平和学習会を行いました。国立広島原爆死没者追悼平和祈念館より朗読ボランティアの梅原信子さん、富永芳美さん、森川宏子さんによる「被爆体験記朗読会」です。約40名の朗読ボランティアが登録されておられ、修学旅行生や学校に出向いて被爆体験記や原爆詩の朗読にをしてくださいます。本校に来ていただくのは3度目。原爆詩の朗読をじっと聴く子どもたちの姿は真剣そのものの。

最後には、アンネ・フランクの父オットー・フランクの言葉を読み上げられました。

「平和は相互理解から生まれます。アンネの悲劇的な死に同情するだけではなく、平和を作り出すために、何かをする人になってください」何かをする人に・・・私は特にこの言葉に強く感銘を受けました。大人の責任として被爆継承ができる子どもたちに育てていく責任が広島教師や大人はもっていると思います。学校・地域・家庭がそれぞれの責任をしっかりと負いながら、また連携協力していきましょう。明日は2年生の平和学習です。彩の会の皆さまが来てくださいます。

「原子ばくだんがおちると、ひるがよるになって、人はおばけになる」という短い詩がありました。この詩を聞いて、私は自分の今までやってきたことはどんなことをしてきただろう。今までやってきたことは正しかったのだろうかと思いました。たくさんのことを思い出せるくらいこの詩は強いと思いました。(5年山下まりなさん)



